

平成30年度行政評価シート【個表】

平成 30 年 7 月 6 日

評価対象事業		評価者	交通政策課担当課長 若林 篤		
共創-06	重点事業	交通体系整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	交通政策課(交通計画課)
	まち・ひと・しごと		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	道路・交通体系の検討	

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全で快適なまちをめざした交通環境をつくりだすため。
効果	公共交通機関における利便性の向上を図るとともに、慢性化する交通渋滞の解消や交通事故の減少を図る。

2 平成29年度に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市交通計画検討委員会(市民、交通事業者等で構成)の運営及び鎌倉地域の地区交通計画を策定するための資料等の作成を行った。 ・交通シミュレーション業務を行い、ロードプライシングを実施した際の混雑状況などを検証した。 ・国土交通省で実施する「鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会」において、本市における交通渋滞の資料作成を行うとともに、ロードプライシングの実現に向けた情報共有を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	28年度決算		29年度決算		データ区分	30年度当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数		人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,869人	80,928世帯	176,466人	81,150世帯	176,308人	81,763世帯		・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数								
事業の対象者数								
運営資源状況	決算値(千円)	31,303	15,475	15,475	当初予算(千円)	38,543		
	国県支出金		4105	4105	国県支出金			
	地方債				地方債			
	その他				その他			
	一般財源	31,303	11,370	11,370	一般財源	38,543		
	人員配置数	2.4	1.4	1.4	人員配置数	3.4		
事業経費運営	人件費(千円)	18,779	11,017	11,017	人件費(千円)	27,519		
	総事業費(千円)	50,082	26,492	26,492	総事業費(千円)	66,062		
	市民1人当りの経費(円)	283	150	150	市民1人当りの経費(円)	375		
	対象者1人当りの経費(円)				対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 市民、商工業者、交通事業者、関係行政機関等

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する				

予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	・平成30年度は、平成29年度に実施した交通シミュレーションの結果を踏まえた検討を行うとともに平成31年度に予定している(仮称)鎌倉ロードプライシングの社会実験の準備を進めていく必要があるため、予算規模を拡大する。 ・財源の一部は、社会実験制度等、国・県の補助制度の活用を検討を行っていく。
	<input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする		
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	・鎌倉地域の交通渋滞解消に向けた自動車交通の抑制策等の検討については、平成8年に20の施策を位置付け事業推進を図り、一定の成果は出ている。しかし、おおむね20年が経過する中で、市内道路の混雑状況は大きく変わることはなく、その解消に向けた抜本的な対策を求める市民のニーズが高いことから、事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい。 ・鎌倉市交通計画検討委員会や専門部会において、市民、商工業者、交通事業者等とともに、施策の検討や社会実験を実施するなど、市民と協働し事業展開を図っている。 ・自動車交通抑制策の一つである(仮称)鎌倉ロードプライシングについては、鎌倉市交通計画検討委員会特別委員会において、法的な課題や課金方法等について検討を行い、平成31年度の社会実験の実施を目指していく。
-------------------	--

<p>平成29年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)</p>	<p>・鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめにおける20の施策について、引き続き検討を行うとともに、(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向けた法制度や課金の技術的方法、事業費の確保、実施主体等の課題について検討する必要がある。</p>	
<p>課題解決のために行った平成29年度の取組</p>	<p>・「鎌倉市交通計画検討委員会」を2回、同委員会専門部会を3回開催し、鎌倉地域の生活道路における安全・安心な歩行者優先の道路空間を確保するため、自動車の速度を抑制する道路(歩行者尊重道路)について検討を行った。 ・国土交通省が公募した「観光交通イノベーション地域」にエントリーし、同省が所管する「鎌倉エリア観光渋滞対策実験協議会」において、(仮称)鎌倉ロードプライシングの提案内容の確認をするとともに既存施設で平成28年度に取得しているETC2.0データの車両感知データを活用した渋滞状況分析例が示され、課題を共有した。</p>	<p><input type="checkbox"/> 解決 <input type="checkbox"/> 一部解決 <input checked="" type="checkbox"/> 未解決</p>
<p>未解決の課題、新たな課題とその理由</p>	<p>・鎌倉地域の地区交通計画策定に向けた中間とりまとめにおける20の施策について検討を続け、実現に向けた取組を進める。 ・平成29年度に行った交通シミュレーションを踏まえて、国・県等と連携を図りながら、(仮称)鎌倉ロードプライシングの実施に向けた法的な課題や課金方法、事業費の確保、実施主体等の課題について整理し、解決するための手法を模索し、平成31年度の社会実験を目指していく。 ・(仮称)鎌倉ロードプライシングの検討状況を見据えながら、交通マスタープランの改定に向けた取組を行っていく。 ・平成31年度実施予定の(仮称)鎌倉ロードプライシングに係る社会実験に向けた準備を進める。 ・20の施策のうち歩行者尊重道路について、1年1路線を目途に整備するためワークショップを開催する。</p>	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名	鎌倉市								
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		単位	指標の傾向				備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	
	目標値							
	実績値							
	達成率							
当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方								